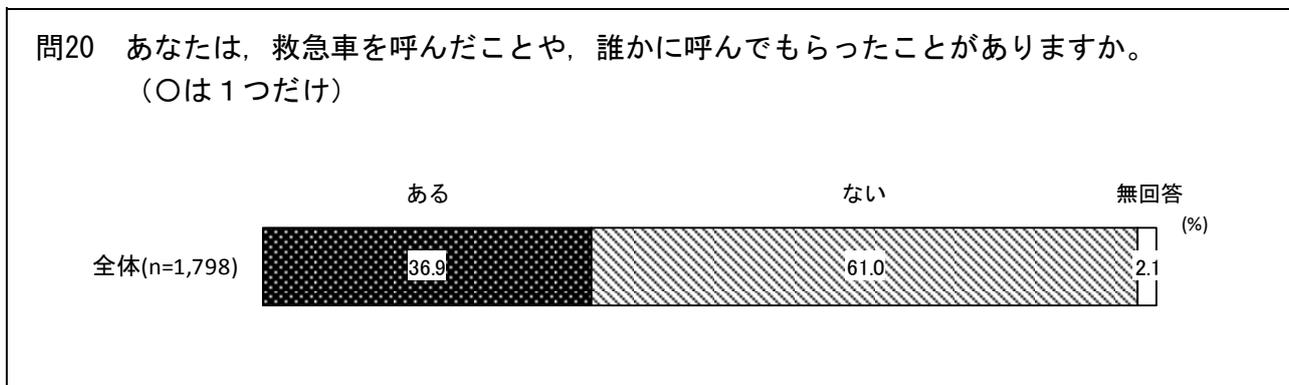


VI 救急医療

1. 救急車を呼んだ（呼んでもらった）経験

－「ある」が3割台半ば－

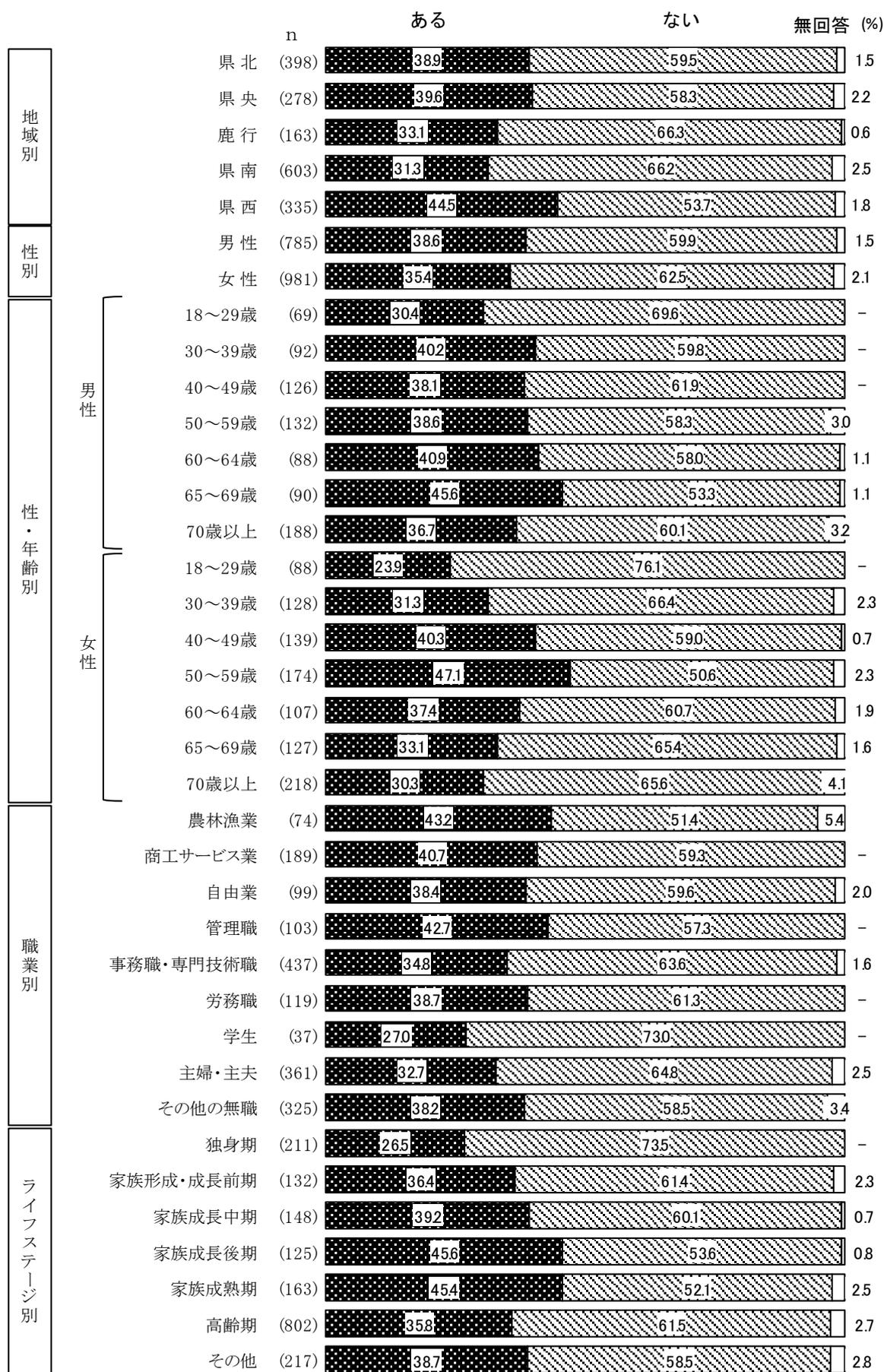


救急車を呼んだ（呼んでもらった）経験としては、「ある」（36.9%）が3割台半ばとなっている。一方、「ない」（61.0%）は6割を超えている。

－女性の50代で「ある」が約5割－

性・年齢別でみると、「ある」は、女性の50代（47.1%）で約5割と最も高くなっている。

図VI 20-1 救急車を呼んだ（呼んでもらった）経験
 （地域別，性別，性・年齢別，職業別，ライフステージ別）

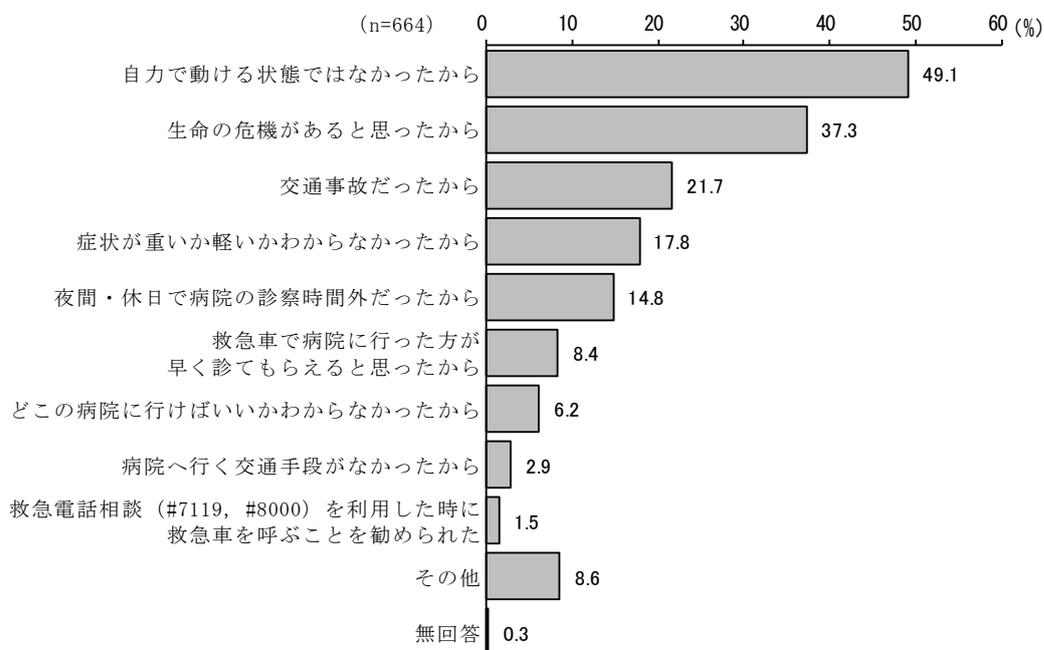


2. 救急車を呼んだ（呼んでもらった）理由

－「自力で動ける状態ではなかったから」が約5割－

（問20で「1. ある」に回答した方へ）

問20-1 あなたが救急車を呼んだり、誰かに呼んでもらったのは、どのような理由からですか。（〇はいくつでも）



救急車を呼んだ（呼んでもらった）理由としては、「自力で動ける状態ではなかったから」（49.1%）が約5割と最も高くなっている。次いで、「生命の危機があったと思ったから」（37.3%）が約4割、「交通事故だったから」（21.7%）が2割を超えて続いている。

－鹿行で「生命の危機があったと思ったから」が約5割－

地域別でみると、「生命の危機があったと思ったから」は、鹿行（48.1%）で約5割と最も高くなっている。

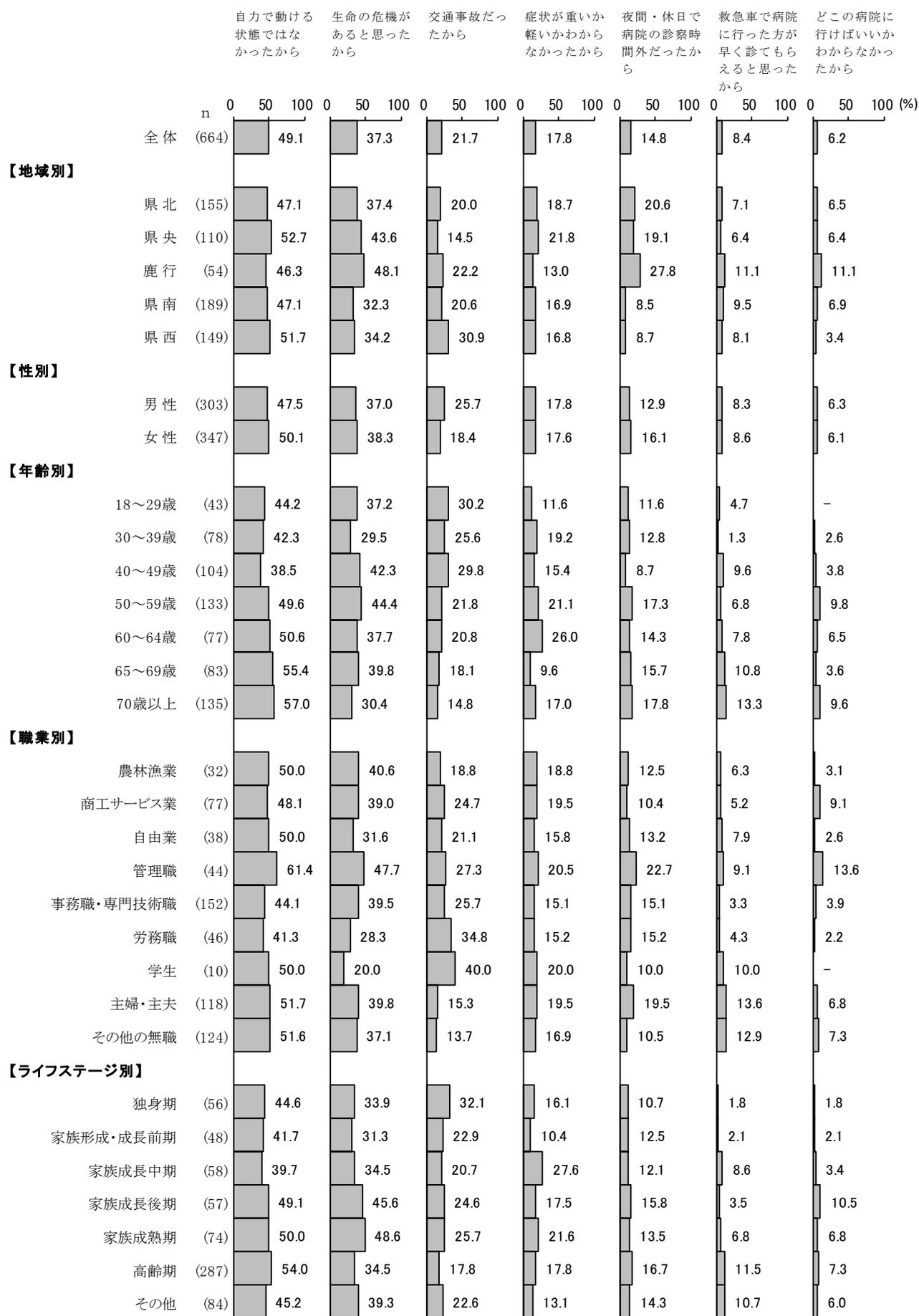
－鹿行で「夜間・休日で病院の診察時間外だったから」が約3割－

地域別でみると、「夜間・休日で病院の診察時間外だったから」は、鹿行（27.8%）で約3割と最も高くなっている。

－70歳以上で「自力で動ける状態ではなかったから」が約6割－

年齢別でみると、「自力で動ける状態ではなかったから」は、70歳以上（57.0%）で約6割と最も高くなっている。

図VI 20-1-1 救急車を呼んだ（呼んでもらった）理由
 （地域別，性別，年齢別，職業別，ライフステージ別—上位7項目）



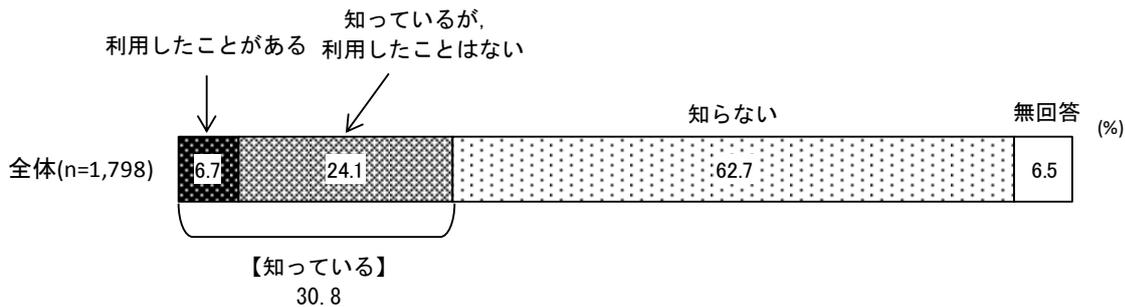
3. 救急電話相談の認知・利用経験

(1) 「#8000 子ども救急電話相談」の認知・利用経験

－【知っている】が約3割－

問21 急な病気やけがをしたときに、救急車を呼んだほうがいいか、自分で病院を受診すればいいかを判断するために、専門家に相談できる電話相談窓口（救急電話相談）を知っていますか。

(#8000 子ども救急電話相談)



※救急電話相談（子どもは「#8000」、おとなは「#7119」）では、専門の看護師などが、24時間年中無休で、救急車要請の要否や即座に医療機関を受診した方が良いか等のアドバイスを行うほか、必要に応じて受診可能な医療機関をご案内します。

「#8000 子ども救急電話相談」の認知・利用経験では、「利用したことがある」（6.7%）と「知っているが、利用したことはない」（24.1%）を合わせた【知っている】（30.8%）が約3割となっている。一方、「知らない」（62.7%）は6割を超えている。

－女性で【知っている】が男性よりも約12ポイント高い－

性別でみると、【知っている】は、女性（36.0%）が男性（24.3%）よりも約12ポイント高くなっている。

－女性の30代で【知っている】が約6割－

性・年齢別でみると、【知っている】は、女性の30代（60.2%）で約6割と最も高く、次いで、女性の40代（53.9%）で5割台半ばと高くなっている。

－女性の30代で「利用したことがある」が約3割－

性・年齢別でみると、「利用したことがある」は、女性の30代（29.7%）で約3割と最も高く、次いで、女性の40代（23.0%）で2割台半ばと高くなっている。

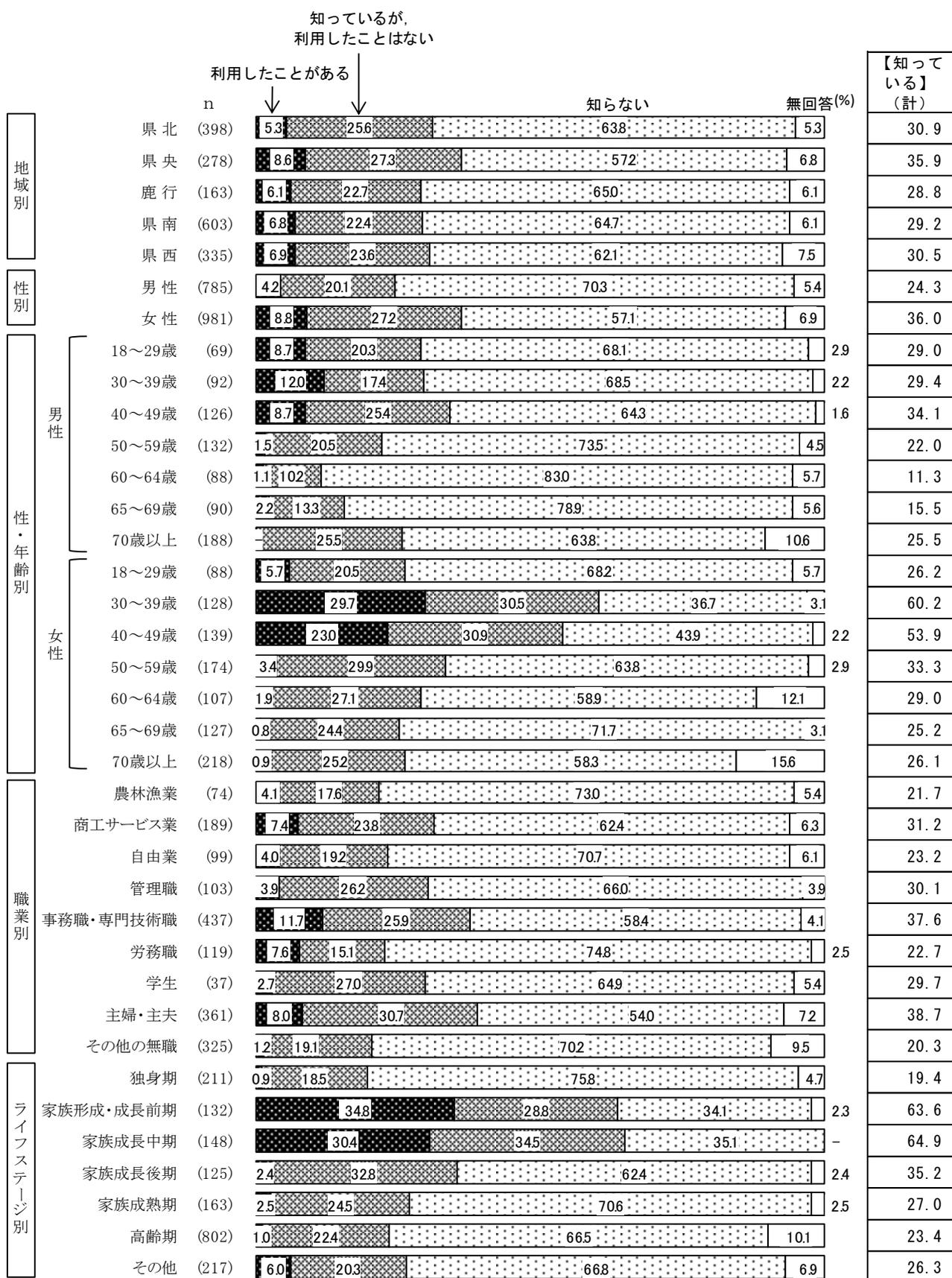
－家族形成・成長前期、家族成長中期で【知っている】が6割台半ば－

ライフステージ別でみると、【知っている】は、家族形成・成長前期（63.6%）、家族成長中期（64.9%）で6割台半ばと高くなっている。

－「利用したことがある」は、家族形成・成長前期で3割台半ば－

ライフステージ別で見ると、「利用したことがある」は、家族形成・成長前期（34.8%）で3割台半ばと最も高く、次いで、家族成長中期（30.4%）で約3割と高くなっている。

図VI 21-1 「#8000 子ども救急電話相談」の認知・利用経験
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別)

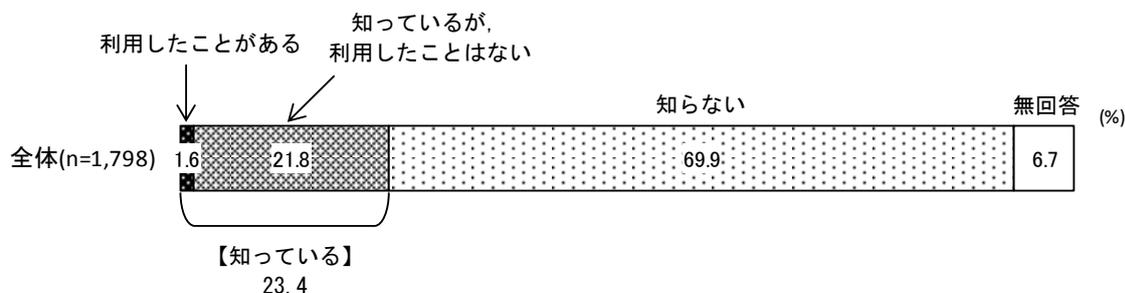


(2) 「#7119 おとな救急電話相談」の認知・利用経験

－【知っている】が2割台半ば－

問21 急な病気やけがをしたときに、救急車を呼んだほうがいいか、自分で病院を受診すればいいかを判断するために、専門家に相談できる電話相談窓口（救急電話相談）を知っていますか。

(#7119 おとな救急電話相談)



※救急電話相談（子どもは「#8000」、おとなは「#7119」）では、専門の看護師などが、24時間年中無休で、救急車要請の要否や即座に医療機関を受診した方が良いか等のアドバイスを行うほか、必要に応じて受診可能な医療機関をご案内します。

「#7119 おとな救急電話相談」の認知・利用経験では、「利用したことがある」（1.6%）と「知っているが、利用したことはない」（21.8%）を合わせた【知っている】（23.4%）が2割台半ばとなっている。一方、「知らない」（69.9%）は約7割となっている。

－女性の30代で【知っている】が3割台半ば－

性・年齢別でみると、【知っている】は、女性の30代（35.2%）で3割台半ばと最も高くなっている。

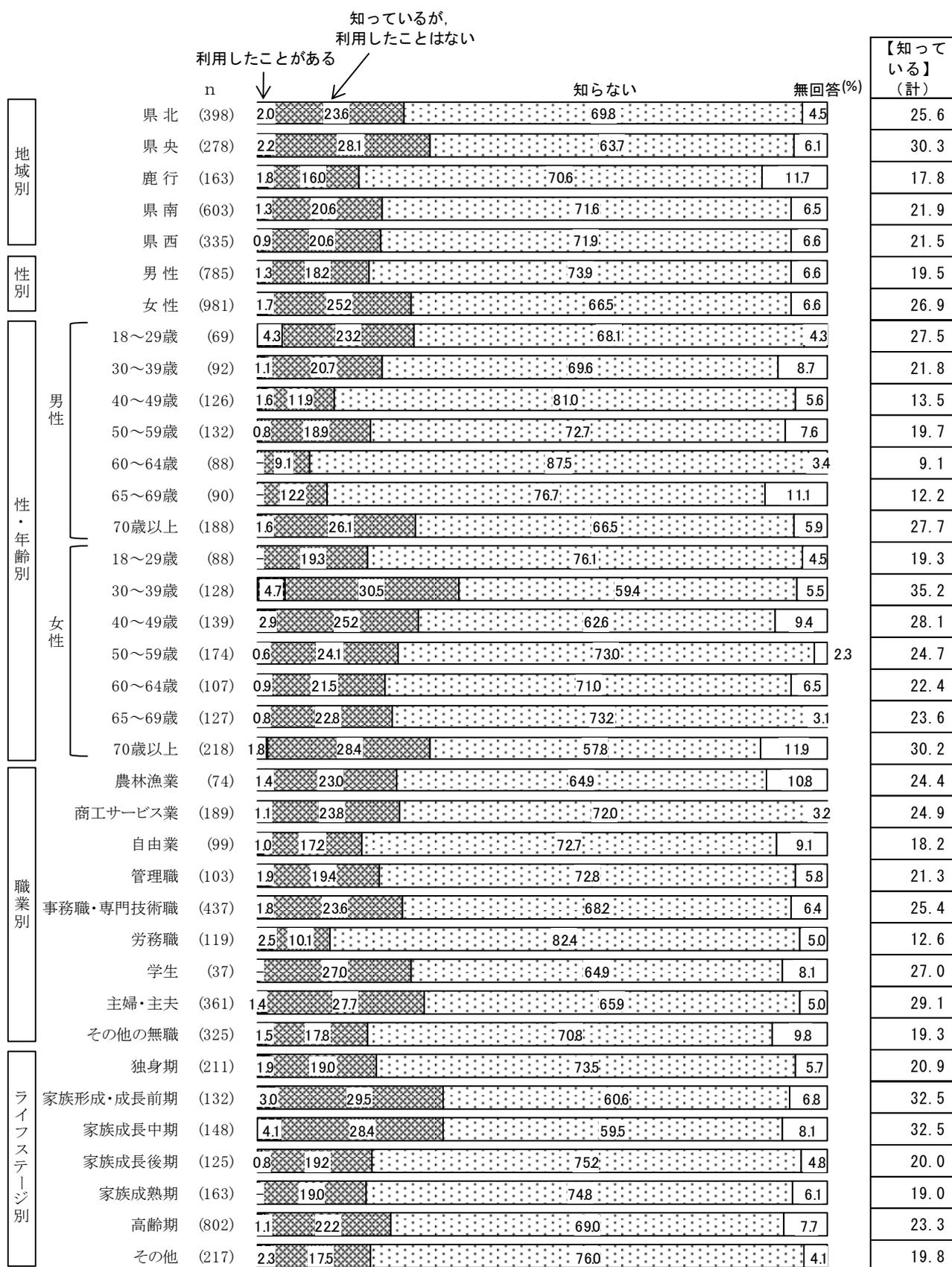
－男性の60～64歳で「知らない」が約9割－

性・年齢別でみると、「知らない」は、男性の60～64歳（87.5%）で約9割と最も高くなっている。

－労務職で「知らない」が8割超－

性・年齢別でみると、「知らない」は、労務職（82.4%）で8割を超えて最も高くなっている。

図VI 21-2 「#7119 おとな救急電話相談」の認知・利用経験
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別)

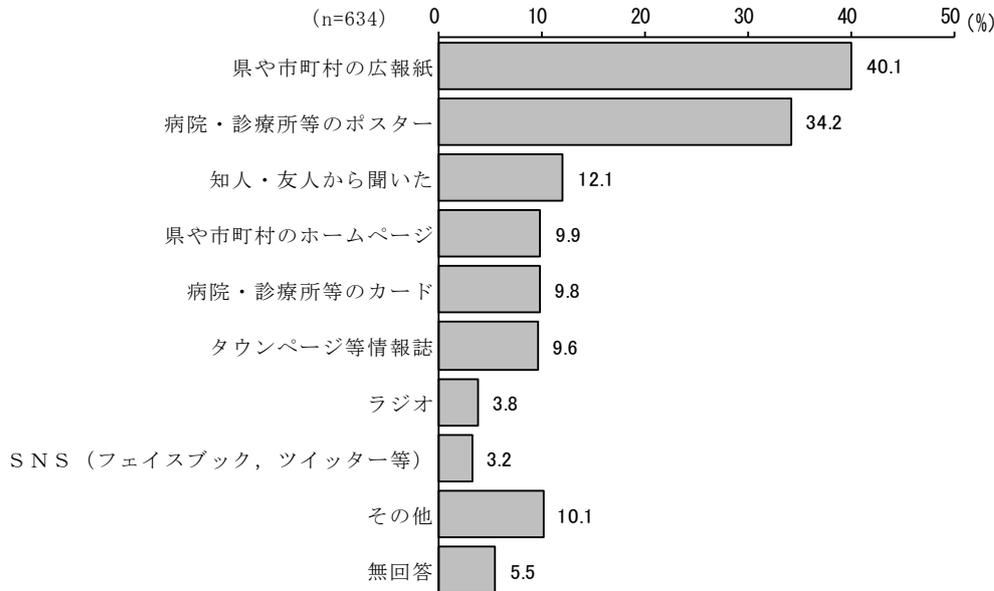


4. 「救急電話相談」の認知経路

－「県や市町村の広報紙」が約4割－

(問21で、「#8000 子ども救急電話相談」と「#7119 おとな救急電話相談」のいずれかについて、「1. 利用したことがある」または「2. 知っているが、利用したことはない」に回答した方へ)

問21-1 あなたは、「救急電話相談」を何で知りましたか。(〇はいくつでも)



「救急電話相談」の認知経路としては、「県や市町村の広報紙」(40.1%)が約4割と最も高くなっている。次いで、「病院・診療所等のポスター」(34.2%)が3割台半ばで続いている。

－女性で「県や市町村の広報紙」が男性よりも約10ポイント高い－

性別でみると、「県や市町村の広報紙」は、女性(43.9%)が男性(34.2%)よりも、約10ポイント高くなっている。

－男性で「病院・診療所等のポスター」が女性よりも約10ポイント高い－

性別でみると、「病院・診療所等のポスター」は、男性(40.6%)が女性(30.8%)よりも、約10ポイント高くなっている。

－60～64歳で「県や市町村の広報紙」が約6割－

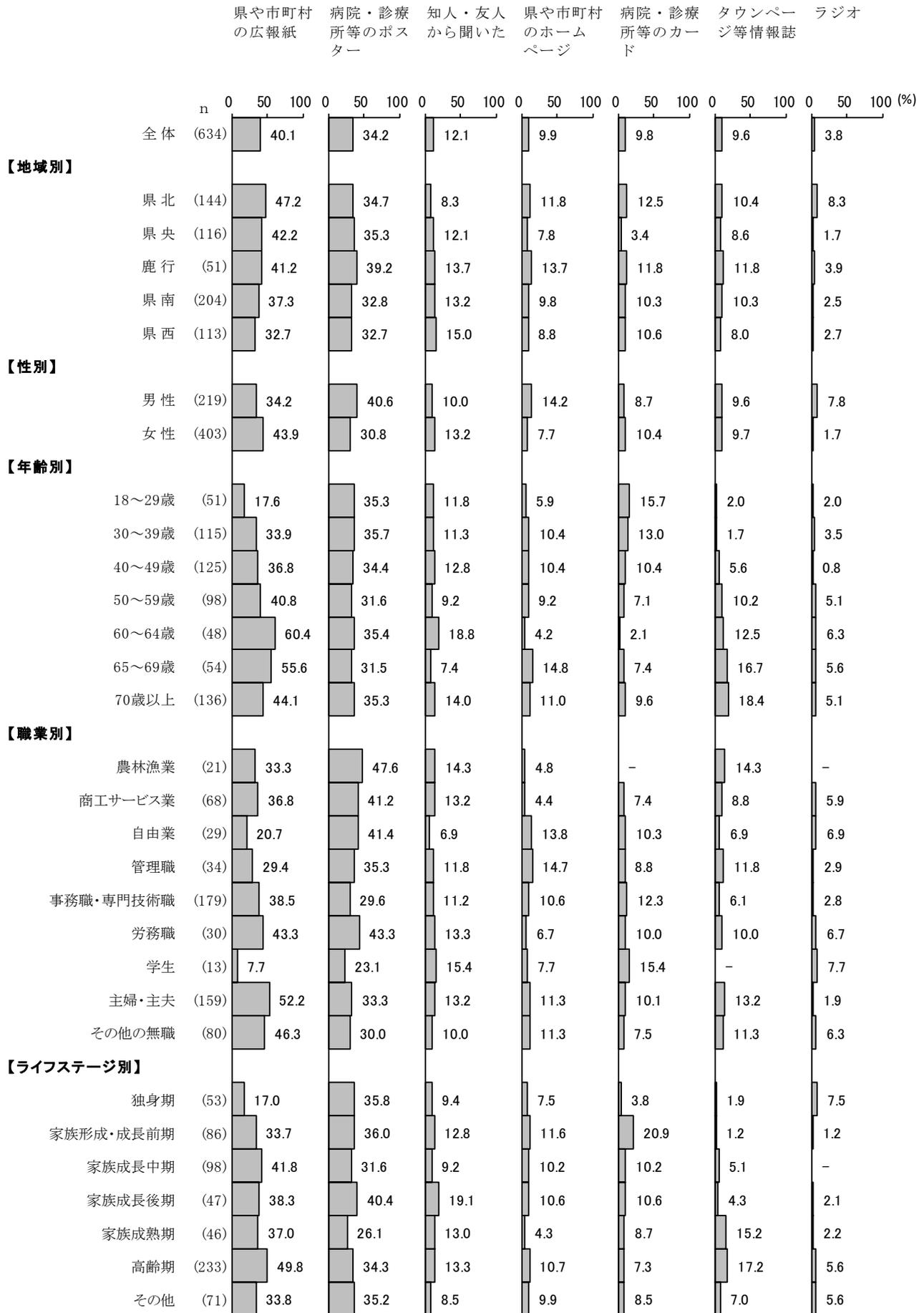
年齢別でみると、「県や市町村の広報紙」は、60～64歳(60.4%)で約6割と最も高く、次いで、65～69歳(55.6%)で5割台半ばと高くなっている。

－主婦・主夫で「県や市町村の広報紙」が5割超－

職業別でみると、「県や市町村の広報紙」は、主婦・主夫(52.2%)で5割を超えて最も高くなっている。

図VI 21-1-1 「救急電話相談」の認知経路

(地域別, 性別, 年齢別, 職業別, ライフステージ別—上位7項目)



5. 「救急電話相談」の利用意向

－「利用したい」が6割超－

問22 あなたは、ご自身やご家族の方などが急な病気やけがをしたときに、「救急電話相談」を利用してみたいと思いますか。（○は1つだけ）



「救急電話相談」の利用意向としては、「利用したい」(61.2%)が6割を超えている。一方、「利用したくない」が(4.3%)となっている。また、「わからない」(31.9%)が3割を超えている。

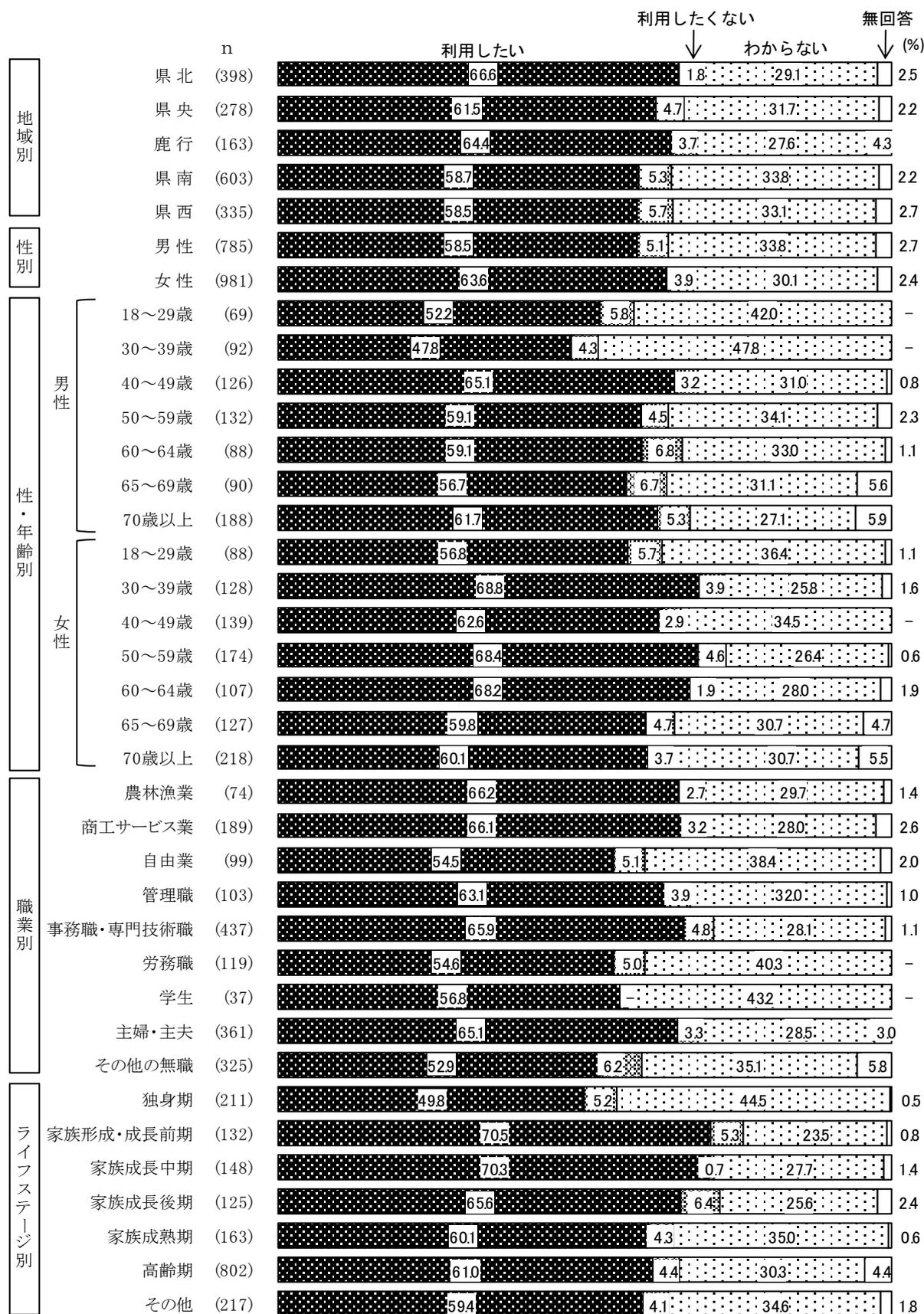
－女性の30代、50代、60～64歳で「利用したい」が約7割－

性・年齢別で見ると、「利用したい」は、女性の30代(68.8%)、50代(68.4%)、60～64歳(68.2%)で約7割と高くなっている。

－家族形成・成長前期、家族成長中期で「利用したい」が約7割－

ライフステージ別で見ると、「利用したい」は、家族形成・成長前期(70.5%)、家族成長中期(70.3%)で約7割と高くなっている。

図VI 22-1 「救急電話相談」の利用意向
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別)

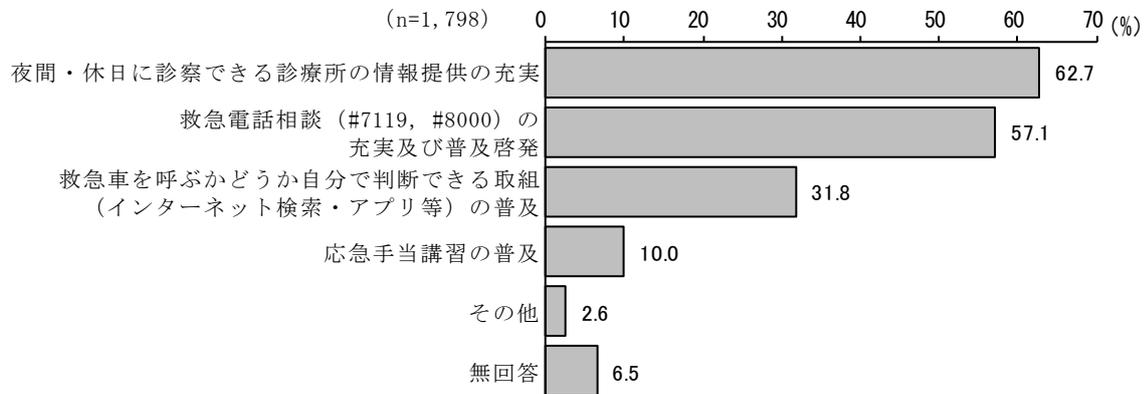


6. 救急車の適正利用に向けて必要な仕組み

(1) 救急車の適正利用に向けて必要な仕組み

－「夜間・休日に診察できる診療所の情報提供の充実」が6割超－

問23 あなたは、救急車の適正利用（不必要な要請を避ける等）に向けてどのような仕組みが必要であると考えますか。（○はいくつでも）



救急車の適正利用に向けて必要だと思う仕組みとしては、「夜間・休日に診察できる診療所の情報提供の充実」（62.7%）が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「救急電話相談（#7119, #8000）の充実及び普及啓発」（57.1%）が約6割、「救急車を呼ぶかどうか自分で判断できる取組（インターネット検索・アプリ等）の普及」（31.8%）が3割を超えて続いている。

－女性の60～64歳で「夜間・休日に診察できる診療所の情報提供の充実」が7割台半ば－

性・年齢別でみると、「夜間・休日に診察できる診療所の情報提供の充実」は、女性の60～64歳（75.7%）で7割台半ばと最も高くなっている。

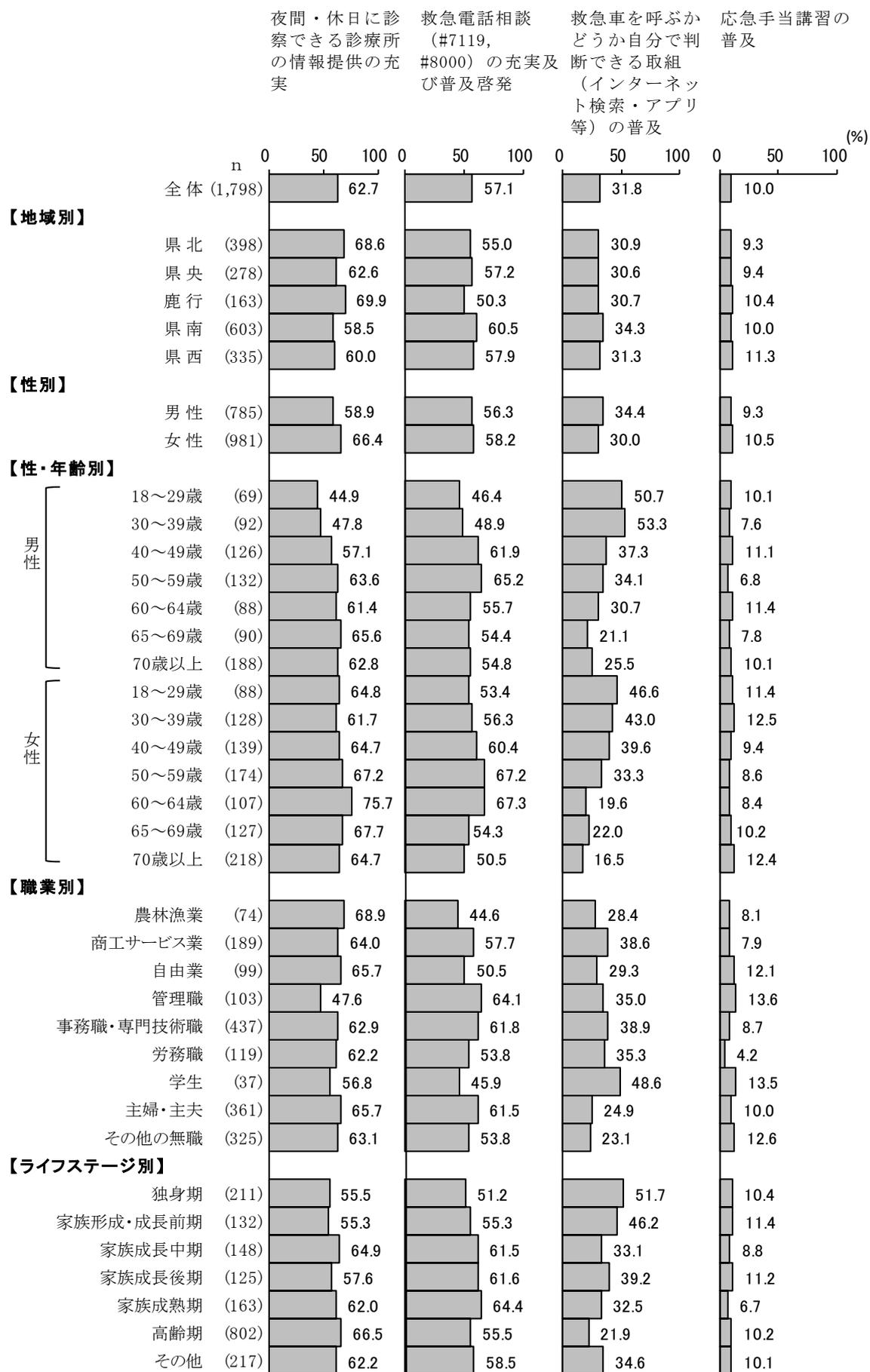
－女性の50代、60～64歳で「救急電話相談（#7119, #8000）の充実及び普及啓発」が約7割－

性・年齢別でみると、「救急電話相談（#7119, #8000）の充実及び普及啓発」は、女性の50代（67.2%）、60～64歳（67.3%）で約7割と高くなっている。

－男性の18～29歳、30代で「救急車を呼ぶかどうか自分で判断できる取組（インターネット検索・アプリ等）の普及」が5割台前半－

性・年齢別でみると、「救急車を呼ぶかどうか自分で判断できる取組（インターネット検索・アプリ等）の普及」は、男性の18～29歳（50.7%）、30代（53.3%）で5割台前半と高くなっている。

図VI 23-1 救急車の適正利用に向けて必要な仕組み
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別)



(2) 救急医療について県へ具体的に求めることやご意見等（自由記載の集計と一部抜粋）

－「救急車の有料化」が最も多い－

問23 「救急医療」について県へ具体的に求めることやご意見等があれば、自由記述欄にご記入ください。

順位	項目	件数
第1位	救急車の有料化	20
第2位	夜間休日診療, 救急医療体制の充実	12
第3位	救急電話相談, アプリなどの充実	11
第4位	普及啓発	10
第5位	搬送時間の短縮	9
第6位	医師確保	4
〃	交通手段の確保	4
〃	119番と救急電話相談の一本化	4
〃	救急時は不安, 余裕がない	4
第10位	救急電話相談の短縮ダイヤルを覚えやすいナンバーに変更する	3
第11位	現状のままで満足	2
-	その他	14

※回答内容ごとに項目へ分類。

※一人の回答が複数の内容に渡る場合には、それぞれの項目へ分類。

救急医療について県へ具体的に求めることやご意見等（自由記載）としては、「救急車の有料化」が最も多く、次いで、「夜間休日診療, 救急医療体制の充実」「救急電話相談, アプリなどの充実」「普及啓発」が上位に挙げられている。

「救急車の有料化」 (20件)

[記載内容の一部抜粋]

- 救急車の利用を有料化した方が不必要な利用が減るとされる。(女性, 30~39歳)
- 救急車の利用を有料にすることでタクシー代わりに利用する人等を減らし本当に必要としている人が利用できるように。(女性, 30~39歳)
- 診察した医師が救急車でなければ致命的な状況になっていたと判断しない限り、一律の金額(タクシーよりも高い額)を診察費に上乗せする。(男性, 40~49歳)

「夜間休日診療, 救急医療体制の充実」 (12件)

[記載内容の一部抜粋]

- 夜間, 休日に診察できる診療所の増加。(男性, 30~39歳)
- 医師不足は分かっていますが, 子供の具合は急なため, 子育て中は1日も気が休まらず, 長い休院時はいつも不安でした。安心して医師にかかれるよう休日の医療を充実して欲しいです。(女性, 40~49歳)
- 救急車の数や救急病院を増やし, 救急車を呼ぶか否か迷わなくていいようにしてほしい。(女性, 50~59歳)

「救急電話相談, アプリなどの充実」 (11件)

[記載内容の一部抜粋]

- 子ども救急電話相談は何度も利用させてもらって, 大変助かっています。一層の充実と継続をおねがいします。(女性, 30~39歳)
- どんなに健康であっても不足な事態はおこりうるのです。まずは, #7119や#8000で相談していただき, その時間もない緊急時は119番するというのもあり得ると思います。(女性, 70歳以上)
- #8000番は専門の先生が沢山いてくれれば安心かと思えます。特に障害を持っているために体調をくずし, 病院に行くか悩むので。(女性, 30~39歳)

「普及啓発」 (10件)

[記載内容の一部抜粋]

- 救急車を呼ぶ人のマナーの方が大切。地道な普及啓発が重要かと…。(男性, 50~59歳)
- 救急電話相談があることを知らせるようにする。ポスターなど, 病院で伝えるとか。(女性, 30~39歳)
- 救急車を呼ぶか判断が必要な時は, 心に余裕がないと思うので, 電話ですぐに番号を思い出して問い合わせできるように普及していただけると良いと思います。(女性, 18~29歳)